

テーマ：『 調べよう！ 柏原の自然。 守ろう！ 柏原の自然環境。』

福岡市立 柏原小学校

Tel. 092-565-4555 担当者： 加峰 茂喜



■実践内容：

本校の4年生は、1学期の理科学習をきっかけに総合的な学習の時間も使って、樹木や昆虫などの柏原の自然を多面的に調べてきている。2学期からは、校区内にある柏陵高等学校環境科学コースの生徒との交流も始まり、調査の対象をさらに絞り込んでいるところである。現在、樹木・昆虫・水棲生物の調査を行い、どのような生物が生息しているのか、なぜその生物が柏原で生活しているのか、また、その生物が柏原の自然環境でどのような役割を担っているのかを、柏陵高校の生徒の助けを借りて究明しようとしているところである。さらには、この豊かな自然環境を守るために、自分達にできることを考え、実践していく態度を育てたいと考えている。

この調査結果は、学年や校内、さらに柏陵高校でのワークショップで、高校生対象に発表する予定である。

■実践成果：

- 樹木・・・柏原地区が油山の裾野に位置することから、多種多様な樹木や植物があることがわかってきた。このことがどう自然環境に影響しているのか、他の生物と関係付けて考えるように方向付けをしている。
- 昆虫・・・植物と同じように多種多様な昆虫を確認した。種類の多さは、植物の種類の数と結びつけ、さらに、鳥などの昆虫を捕食する肉食の生き物との関係にも気づいていけるようにしたい。
- 水棲生物・・・プラナリアやホタルの幼虫、カワゲラ類の幼虫などを確認した。「きれい」から「すこし汚い」水域に住む生物である。調査した川が源流に近いことや、源流域の樹木に自然林が多いことと結びつけて考えさせたい。

■実践ポイント：

子ども達は、高校生と交流を始めたことで、自分達では思ってもいなかった生物の環境に対する役割に気づいてきている。交流が子ども達の要求に的確に対処し、満足させ、自然環境に対する認識を高めることにつながった。